

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	平成 30 年 4 月 23 日
報告者	廣田夏実
助成団体名 (所属団体名)	特定非営利活動法人さんまクラブ
団体住所	〒 528-0028 滋賀 都道府県 甲賀市水口町梅が丘 5-2
団体電話番号	0748 - 76 - 3414
代表者 (助成対象者)	谷村徳幸
助成対象事業	放課後学童クラブ事業
事業（助成）期間	平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月
事業費総額	4,138,000 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

2017年4月1日～2018年3月31日までの月曜～金曜の放課後から17:30まで（最大延長18:30まで）の放課後学童クラブ事業（放課後さんまクラブ）。

各小学校から帰所後、宿題、おやつ、自由遊び、掃除、お迎え。各々に合わせ小学校、バス停へのお迎えも行っている。

上記の他、2017年7月末～8月末の1ヵ月間の長期休暇中学童保育（夏休みさんまクラブ）を開催しており、この期間中放課後さんまクラブは休暇となる。

8:30開所、9:30まで夏休みの宿題、自由遊び、昼食、自由遊び、おやつ、掃除、16:30お迎え（最大延長18:30まで）が1日の流れである。自由遊びの際、地域の市民プールに行ったり公園に行ったり、またクッキングや遠足などのプログラムも行う。昼食はみんなで作って食べることや、スタッフが手作りで提供する日もある。

これらの活動に参加する子どもたちに制限は設けておらず、障がいを持った子ども、健常者、様々な家庭事情の子どもなど、すべての子どもたちが一緒に過ごすことを大切にしている。

3、事業成果

2017年度放課後さんまクラブ：205日開催、延べ参加人数 1512人

2017年度夏休みさんまクラブ：25日開催、延べ参加人数 609人

前年度から活動に参加している子どもの他、新規の参加者が非常に多く、当法人のある学区外からの参加も増加した。全部で11の小学校から様々な学年、障がいを持っている子ども、持っていない子どもが集まり、一緒の場所で同じ空間を共有し、関わりをもつことができた。夏休みには全員で遠足に行ったり、クッキングを3回行ったりと子どもたち同士で話し合い、協力したり楽しむ姿が多く見られた。保護者からの賛同や励ましの言葉を多く受け、少しずつではあるが法人の活動が地域社会において認められ、また大きな意味をもつ活動であると感じることができた。

法人が設立され2017年度で4年目になるが、地域の学童保育の規定（親の就労が条件）により、法人の活動が認められておらず公的な補助が受けられないでいた。しかし、4年間の行政との交渉の結果、2018年4月～就労している親の子どもを対象とした学童保育「民設民営学童クラブ」の認可があり、補助を受けることができるようになった。利用料収入や、全国からの寄付、助成金による補助でなんとか継続してきたが、ようやく、活動が認められ、地域社会に新しい学童の在り方を提示できる大きな一歩であると認識することができた。

4、今後の課題など

事業成果で報告したように、「民設民営学童クラブ」の認可はおりたが、あくまで就労している親の子どもに限られた補助であり、従来利用している子どもたちすべてには当てはまらない。私たち法人の目標は、今まで通り障がいや就労の有無に関わらず、あらゆる子どもが一緒の場所で育ち、分け隔てなく過ごすことができる“居場所”を創ることである。2018年度からは民設民営の学童クラブを行いながら、今までの学童クラブ（任意事業）も行い条件に当てはまらない子どもたちも、障がいを持つ子どもたちも受け入れていく。少しずつではあるが、これからも私たち法人の掲げる目的を1人でも多くの人々に知ってもらい、日本社会全体が「障がい者」と「健常者」を分け隔てることなく、両者が同じ空間で生きることの重要性を認識し、共に生き共に育つインクルーシブ（内包的）社会の実現を目指し、活動を続けていきたい。